

# 体育授業の中における教材化の過程に関する 実践研究

## —生徒の既成概念とゲーム様相の変容に着目して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）  
柴田 航貴

本研究は、生徒が既にもつ思い込み体育科授業の既成概念の変容について明らかにするとともに、体育科授業内において教師と生徒がともに教材づくりを進めていく中で、ゲーム様相の変容を明らかにすることを目的とした。対象は公立中学校第2学年男女計65名とした。岩田靖（2018）の教材概念、教材づくりの考え方を参考に雪合戦ゲームの授業実践を行い、イメージマッピングを用いて生徒のもつ既成概念の変容と生徒の学習カードの記述内容、授業映像からゲーム様相の変容に着目した。

授業実践を行った結果、生徒の既成概念の変容では、単元前では苦手意識、競技志向、得意意識などから単元後では挑戦的価値、協働的価値へと変容したことが明らかとなった。ゲーム様相の変容では、4時間完了の単元の中で生徒と教師がともに雪玉の使用個数や壁の設定位置、コート変更等のゲームルールについて再構成を行うことで、実践授業の単元の学習内容に迫る生徒の姿が明らかとなった。